当世若者ボランティア事情
（第３回　人・まち・エコ学習会）

３月27日開催の第３回は、気候変動や環境、まちづくりをテーマに、活動している「人」にもフォーカスをあてるのが「人・まち・エコ学習会」です。今回はご自分が大学生の時から、ボランティア活動、支援センターを立ち上げた、高井大輔さん（合同会社プラナス・ＮＰＯ法人プラナス代表）に、今どきの若者たちのことを聞きました。阪神・淡路大震災を機に、ボランティアが当たり前になり、大勢の若者が関心を持ち、参加している時代になったんだなーと感じました。　（HT）

職場体験 in 川崎国際環境技術展

2015年２月５、６日にとどろきアリーナで開催された、「川崎国際環境技術展2015」を職業体験でセンターを訪れた野川中学校の生徒２人が見学しました。

慣れない雰囲気に緊張した様子でしたが、クイズをしたりトラックの運転席に座らせてもらったりして、川崎市の最新の環境技術を体験しました。中学生には少し難しかったかもしれませんが、２人とも一生懸命説明に耳を傾け、パワーポイントでレポートも作成しました。家族や友達、学校、地域に、若い２人からの環境に対する意識が少しずつでも波紋のように広がっていくことを期待します。　（CW）

エコちゃんずポイントカードは、有効期限延長しました

講座に来たら、次の講座を申し込んだり、というのでどんどんポイントがたまりました。１枚目がスタンプいっぱいになったので、温湿度計のついた時計などのエコグッズセットをもらいました。今度はエコちゃんずＴシャツを目指しています。何色がいいかな。

２枚目に挑戦中の神谷さん（麻生区在住）

高津市民館の省エネ

当センターがある高津市民館では、日々省エネ対策を進めています。電力使用量は年々減少していますが、使用量の減少とは裏腹に使用料金が高騰したままであるため、さらに光熱水費の削減が必要となっています。そこで、2014年度、当センターのプロジェクトグループとして活動していた「マンション共用部省エネプロジェクト」が市民館内の省エネ改善策を提案してくれました。提案内容を参考に、市民館では照明のLED化や体育室への節水シャワーヘッドの導入などを順次進めていくとのことです。　（CT）

ウォールギャラリーの照明をLED化

環境意識の高い日本　環境問題に熱心な川崎市

川崎市地球温暖化防止活動推進センターを訪問して、エコ運転の体験等、様々なエコ活動について学ぶことができ、大変印象深い訪問でした。

アメリカでは、このような環境活動センターを見たことがありません。アメリカは非常に広いため、エコの意識も地域によって大きな違いがありますが、概して日本はアメリカより環境意識が高いと感じます。その日本においても、川崎市は環境問題に特に熱心な都市だと思います。今後さらなる川崎市におけるエコ活動の進歩を期待しています。

レベッカ・トンプソン

米国テネシー州出身。オランダのライデン大学で博士課程在学中。留学を機に約２年間日本に住んでいた経験があり、2014年の６月から研究のために再来日。研究テーマは、日本の廃棄物とリサイクル。

編集後記

当センターでは自転車発電などの体験ができます。環境問題スクラップブックを始めましたので、最新の情報をご覧ください。バックナンバーもあります。毎月のテーマ展示に関連したクイズにもぜひ挑戦してください。

今年も夏休み自由研究講座を開催します。お楽しみに!!

発　行：川崎市地球温暖化防止活動推進センター
〒213-0001　川崎市高津区溝口１－４－１
ノクティ２　11F　高津市民館内
電　話：044－813－1313　FAX：044－330－0319
メール：office@kwccca.com
ＵＲＬ：http://www.cckawasaki.jp/kwccca/

※川崎市地球温暖化防止活動推進センターは、川崎市から指定を受けた認定 NPO 法人アクト川崎が運営しています。

【開館日】火曜日～日曜日　午前９時30分～午後５時30分　【閉館日】月曜日ただし第３月曜日が祝日の場合は、翌日も閉館

川崎市地球温暖化防止活動推進センターだより

エコちゃんず通信 No.21

2015.4.20 発行
エコちゃんず通信は、CC かわさき交流コーナーにある川崎市地球温暖化防止活動推進センターのニュースレターで年４回発行します

春休みエコ体験教室 2015

定員をはるかに超える応募があった講座もあり、当選したみなさんが楽しく参加しました。

3月28日(土) 10:30～12:00　手作り顕微鏡で細胞を見てみよう

細胞やレンズについての説明の後、ビーズの大きさで見え方が違うことを確認しました。次に、プラスチック弁当のふたを切ってプレパラートを作り、たまねぎの細胞をはさみました。厚紙と極小ビーズを使った簡単な顕微鏡を作成し、細胞を裏においてのぞいてみると、こんな簡単なものでも、たまねぎの細胞やジャガイモでんぷんが見え、子どもたちも保護者の方々も楽しそうに実験していました。　（YO）

レンズのはたらきを確かめる

ビーズ顕微鏡をのぞいてみよう

3月28日(土) 13:30～15:00　ソーラーカーを作ろう

ソーラーカーを組み立てる

光の不思議について説明を受けた後、太陽電池を使ったミニソーラーカーの工作を行いました。子ども達も保護者の方々も、一生懸命マニュアルを読みながら作っていました。車輪の軸をはめるところや、太陽電池を取り付けるところなど、いくつか難しい部分もありましたが、みなさん完成させ、電球の光を太陽電池にあてると、モーターが動いて車が走るのを確かめることが出来ました。　（YO）

電球を近づけると動いた

3月29日(日) 10:30～12:00　地球１個分で暮らすために
小学３年生以上の講座

参加者が、１人１台のタブレットを使って、「エコロジカルフットプリント」（私たちの暮らしを支えるために使っている様々な環境負荷を面積で表したもの）について学びながら、双方向に意見を出し合いました。最後に、地球１個分で暮らすために取り組みたいことを宣言しました。子どもたちは、「きちんと水筒を持っていく」「歯みがきの時に水の出しっぱなしをしない」「野生動物の事を考えたい」など、生活チェックで気になった事を宣言にまとめました。タブレット授業を体験できてよかったと保護者からの感想もありました。　（YS）

3月29日(日) 13:30～15:00　プラスチックのリサイクル体験教室
小学３年生以上の講座

身近な所でさまざまに使われているプラスチックについて学んだあとに、その中のひとつである発泡スチロールを溶かした後に元に戻すという実験と、プラスチックカップを使ったキーホルダーづくりを行いました。プラスチックのリサイクルは、なかなかイメージがしにくいですが、実際に実験という形で行ったのでとても分かりやすかったとの感想がありました。キーホルダーづくりは、子どもたちにも保護者にもとても好評で、楽しく取り組んでいました。　（YS）

2015 1月のテーマ展示　交　通

「交通事故を減らすことで、CO_2削減に貢献できる」という切り口で、定番の「エコドライブのすすめ」の他、川崎市内の公共交通網の路線図（電車・バス）紹介、自転車のルール紹介等も行いました。講座でも、「自転車」を取り上げ、意外と知らない「自転車のルール」「自転車に関する法律の改正」「交通事故の現状」等を、高津警察署の方にご説明いただきました。その中で、「川崎市は、神奈川県の中でも、かなり交通事故（特に自転車事故）が多い」というショッキングな事実がわかりました。誰でもできる取り組みは、交通ルールを守り、「安全」に気をつけること。それが渋滞、車の修理・廃棄等…CO_2削減につながるのです。　(MS)

2月のテーマ展示　水素エネルギー

昨年11月には水素を燃料とする燃料電池自動車(FCV)が発売され、川崎では臨海部を中心に水素エネルギー活用の加速が始まり、「水素社会」到来間近を思わせます。そこで２月のテーマとして「水素」を主体とするエネルギーをとりあげました。その他にもソーラーシェアリング、“川崎らしい”エネルギーの取組、藻のエネルギー、再エネ導入状況、市民電力　市民によるエネルギービジネスを紹介しました。

２月21日（土）10:00～11:30には高津市民館第５会議室で千代田化工建設株式会社の大島泰輔氏を招いて「川崎臨海部からはじまる水素供給ネットワーク」と題して講座を開きました。参加者約40名で、質問も多く盛況でした。　(JI)

3月のテーマ展示　CSR

講演会「川崎臨海部100年」講座を３月29日（土）、高津市民館第１・２会議室　参加者37名　講師スタッフ含め全員で43名で開催しました。

川崎が1912年に工業都市へと歩み始めて早や102年がたちます。これまでの100年の歴史を、臨海部の企業誘致の歩みと公害問題の側面からひも解きました。

前半に、NPO法人産業・環境創造リエゾンセンター顧問　瀧田浩さんによる「工都かわさきの誕生～100年前にタイムスリップ～」、後半に、NPO法人環境研究会かわさき代表　井上俊明さんによる「かわさきの環境　今・昔」のお話を伺いました。

講座は多くの反響を呼び、市民、事業者と様々なジャンルの方が関心を寄せてくださり、センター講座は初めてという方が半数いました。参加者の感想をご紹介すると、

★臨海部の歴史をコンパクトにわかりやすくまとめていただきました。
★伺ったお話をもとに自分の足で歩いてみます。
★現存する工場の歴史を知ることで具体的でよく理解・整理ができました。理想的な職住接近の模範都市として、発展してもらいたい。
★電力供給の視点のお話は興味深かった。環境技術で公害をクリアしてきたことがよくわかりました。

100年の歴史を理解するとともに、これからの川崎をどうつくっていくか、多くの人の知恵と協力が必要で、こういった歴史を学ぶ機会が大変貴重で有効だと感じました。　(YS)

グリーンコンシューマーグループ

2月９日(月)「食品ロスを減らす」講座を開催

講師：農林水産省食品産業環境対策室長　長野麻子さん

●日本では、年間約1,700万トンの食品廃棄物が排出。このうち、本来食べられるのに廃棄されているもの、いわゆる「食品ロス」は、年間約500～800万トン含まれると推計（平成22年度推計）。この内、家庭からの食品ロスは約半分です。

下の写真は、京都市のある50世帯の３日間からでた手付かずの食品ごみをまとめたものです。

NPO法人環境市民資料より

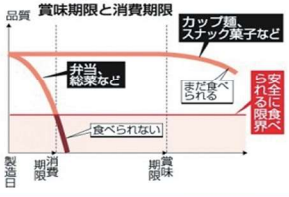
日本のお米の
年間生産量
約813万トン

●**食品ロスを減らすには、**

◇消費期限と賞味期限の違いを理解する。

「**賞味期限**」は品質の劣化が比較的ゆるやかな食品に表示、品質が保たれおいしく食べることのできる期限のこと。

「**消費期限**」は５日くらいで品質が劣化しやすい食品に表示、この期限を過ぎると食べないほうがよい。

◇必要なものを必要な量だけ買う。

「買いすぎない」「使いきる」「食べきる」　(KK)